

| | | |
|----------------------------|---|--|
| 開講科目名 / Course | 教職実践演習（養護教諭） | |
| ターム・学期 / Term・Semester | 2024年度 / Academic Year 後期 | |
| 開講区分 / semester offered | 後期 | |
| 単位数 / Credits | 2.0 | |
| 学年 / Year | 4 | |
| 主担当教員 / Main Instructor | 吉村 匠平 | |
| 担当教員名 / Instructor | 関根 剛、吉村 匠平、小野 治子、中釜 英里佳 | |
| 必修・選択 / compulsory subject | 選択 | |
| 講義形態 / Class Type | 演習 | |
| 科目の目的と概要 | 養護実習 は、実際の教育現場である学校で行われるため、実習内容は、学校種、学校の規模、教職員の配置、校区の特性などに大きく影響をうけることになる。教職実践演習では、まず、養護実習 を振り返り、その内容を履修生同士で交流することによって、各自が実習で何を学び、何を学んでいないかを明確にする。その上で、多くの履修者にとって不足しているであろうトピックを取り上げて、演習を展開する。施設見学実習に関しては、日程調整が必要なため、授業計画に示した施設を訪問できるかは未定である。 | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの履修内容、養護実習を振り返り、自身の養護教諭としての適性について説明する。 2. 養護教諭になるための現時点の自己課題を明確にし、説明する。 3. 自己課題に向き合うために、どのような学習が必要か言う事ができる。 4. 卒業後の進路を決定する。 5. 教職課程を履修することが、看護学の学びにどのように影響したか、説明できる。 | |
| DPとの対応 | 2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力、3.心豊かな人間性と倫理観、4.より健康な社会の実現に向けて課題を見出し、改革・改善する力、5.国際性を持ち、多くの職種や人々と連携・協働する力 | |
| 授業計画 | 01-04. 養護実習 の振り返り（PCAGIP法による理解の深化） 05-06. 人間関係づくりプログラム（構成的エンカウンター）の理解と実践 07-08. 救急法の理解と実践 09-10. 保健指導案の作成～大分スタンダードに基づく授業展開の構成 11-12. 多職種、関係機関との連携 13-14. 特別支援教育の理解 15. 4年間の教職課程履修の振り返り | |
| その他の授業の工夫 | ・必要に応じてゲストスピーカーを招聘する。 ・校外への見学実習を企画する場合がある。その際の移動に要する費用は、原則参加者の負担となる。 ・学生が、課題に取り組み、作成し、表現する機会を多く設ける。 | |
| 時間外学修 | ・実習記録の完成（10h） ・アイズブレイクのファシリテーションができるよう、web上の動画を見て準備をする（5h） ・包帯法など必要な手技の復習を行う（5h） ・10分前後で行う保健指導の指導案作成、資料作成（10h） ・見学実習のレポート作成（実際に見学実習を実施した場合）（5h） ・履修カルテの完成、提出（10h） | |
| 評価方法と評価割合 | ・各種プレゼンテーション（50%） ・履修カルテ、レポート、制作物（50%） | |
| テキスト | | |
| 参考書 | | |
| 履修する上で必要な要件 | 全ての履修者が養護実習 を終えたのちに開講する。 | |
| その他 | 卒業研究と並行しての履修です。タイムマネジメントの絶好の学習機会と考えてもらえると嬉しいです。 4年間を振り返り、教職課程を履修してよかったと思える点を多く発見しましょう。 | |
| 教員の実務経験 | 有・無 | 有 |
| | 内容 | 関根剛 臨床心理士 吉村匠平：公認心理士、学校心理士 小野治子：高等学校、特別支援学校の養護教諭 |
| 教員以外で指導に関わる者の実務経験 | 有・無 | 無 |
| | 内容 | |
| 実務経験をいかした教育内容 | 学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成し、例示を行う。 | |